

## 令和4年度大学コンソーシアムとちぎ 学生活動支援事業 報告書

機 関 名	帝京大学
団 体 等 名	帝京大学トレーナーチーム
学生代表者氏名 (所属・学年)	後藤 由茉 (医療技術学部柔道整復学科・3年)
責任教職員氏名	剣持 佑起 (医療技術学部柔道整復学科 講師)

1. 事業名	両者にプラスワンで地域の課題解決！ 公立高校運動部学生トレーナーサポート事業
2. 実施時期	2022年9月1日(木) から2023年1月31日(火) まで
3. 実施場所	栃木県立宇都宮高等学校 体育館・柔道場・グラウンド その他試合会場
4. 事業の内容等	<p>○事業内容 柔道整復学科トレーナー課程での学びを活かして、公立高校運動部の安全な環境づくりと競技力向上を支援することを目的とした学生主体のトレーナーサポート。</p> <p>○サポート対象 部活動顧問より学生トレーナー派遣希望があった柔道部、バスケットボール部、サッカー部、バレーボール部、ラグビー部、陸上競技部の6つの部活動。</p> <p>○主な活動内容 ・怪我発生時の救急対応 ・怪我のコンディショニング相談 ・体力測定と測定結果の向上・改善を目標としたコンディショニング指導 ・競技復帰に向けた運動指導 ・競技力向上を目標としたウォーミングアップ・トレーニング指導など。 その他、各部活動顧問又は選手の要望に合わせて学生トレーナーの役割として対応できる範囲でのサポート活動をした。</p> <p>○トレーナーサポート頻度 派遣された学生トレーナーと部活動顧問との相談の上でサポート頻度を決定した。そのため、各部活動によって、サポート頻度は異なり週1回から週2～3回程度であった。また、平日の練習時のみのサポートもあれば、部活動によっては練習と試合でサポートしている部活動もあった。</p> <p>○学生トレーナー 医療技術学部柔道整復学科トレーナー課程3年2名、2年生6名</p>

5. 事業の成果と  
今後の課題

○事業の成果

各部活動において学生トレーナーが個人もしくはチームに対応するごとに1件として①部活動別の対応件数②対応場所③部位④トレーナー対応の内容を2022年9月から2023年1月まで記録して集計した。結果(別紙図1～4参照)は以下の通りである。

①部活動別トレーナー対応延べ件数(図1)

サッカー部42件、柔道部25件、陸上競技部19件、ラグビー部9件、バレーボール部7件、バスケットボール部5件の順で多く総件数107件であった。

②対応場所(図2)

高校80件、試合会場24件、練習会場3件の順で多く総件数107件であった。

③部位別(図3)

足関節21件、全身13件、大腿部前面と膝関節9件、足部/足底8件の順で多く総件数107件であった。

④トレーナー対応の内容(図4)

トレーニング(指導含む)28件、怪我の相談24件、テーピング16件、アイシング14件、コンディショニング(指導含む)13件の順で多く総件数111件であった。

以上のことから、

本事業において見込まれる成果として挙げている

・公立高校側

「学生トレーナーの介入によって、傷害予防と競技力向上を目的とした部活動の手厚いトレーナーサポートが受けられる。」

・大学学生側

「部活動でのトレーナー活動が大学での学びを実践でアウトプットする場となって、卒業後に繋がる実践経験を得ることができる。」

ことを十分に成果として得ることができたと考えている。

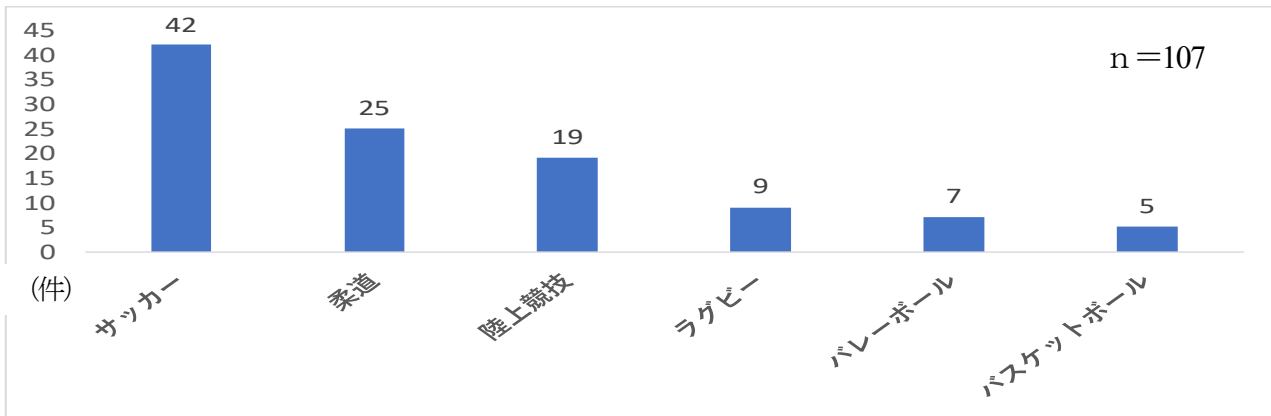
帝京大学柔道整復学科トレーナー課程は、県内唯一の日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーの免除適応校となっているものの、学内だけではトレーナー活動環境が十分に整っているとは言い難く、競技力が高く部活動が盛んに行われている高校の環境でトレーナー活動ができて素晴らしい経験値を積むことができた。加えて、実施校の部活動顧問と選手たちからは、身体の専門家に依頼するだけの予算確保が困難な現状の中、身体に関連することを学んでいる学生トレーナーが定期的に介入サポートしたことで、気軽に選手が怪我の相談ができたり、テーピングを巻いてもらったり、チーム全体で専門的なトレーニング指導が受けられるなど好評をいただくことができた。来年度以降の活動についても継続の方向で検討している。

○今後の課題

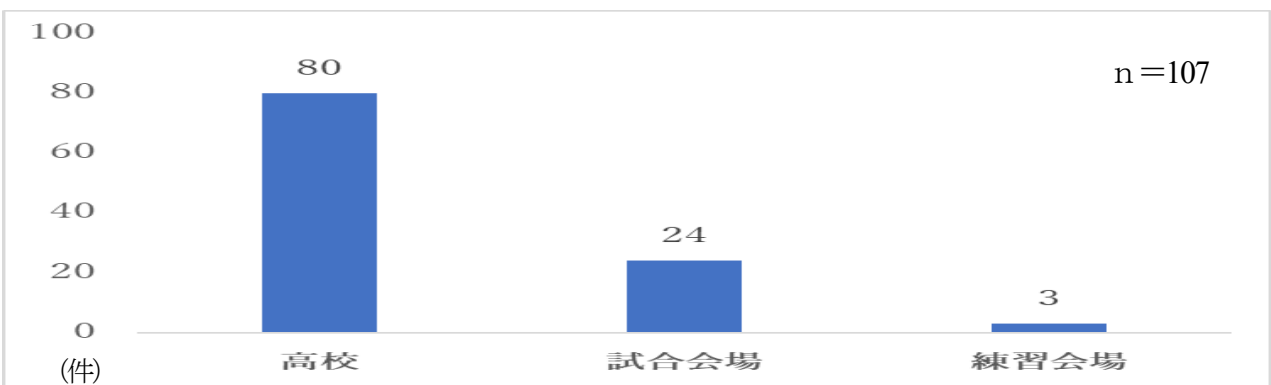
両者の強みをプラスワンで地域課題を解決していくためには、学生トレーナーにとっては、自ら考えて自ら実践的な経験を継続するための活動資金が大きな課題である。今回の活動事例をもとにして、栃木県内の部活動で競技力向上と傷害予防の活動が広がるきっかけとなるように多方面にアプローチして両者にプラスワンで地域の課題を継続的に解決していけるよう活動をしていきたい。

# トレーナー対応記録集計 結果一覧表

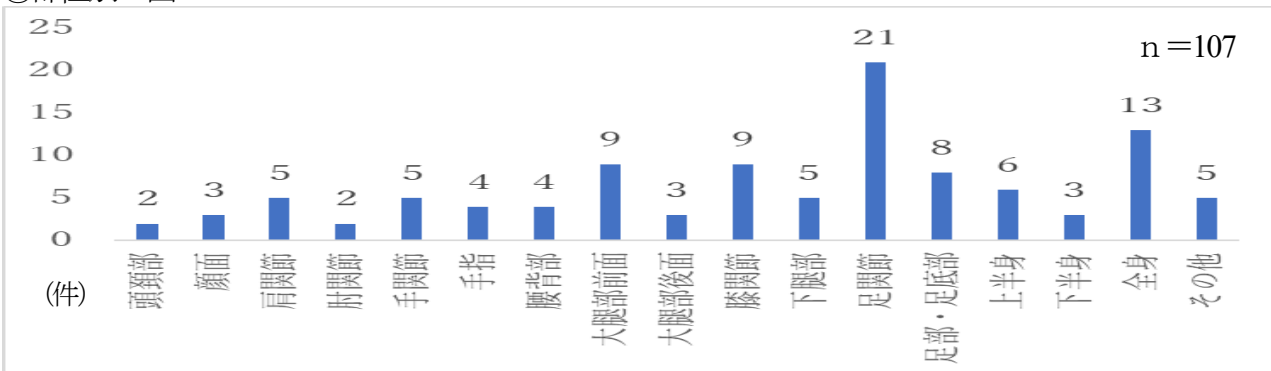
①部活動別 図1



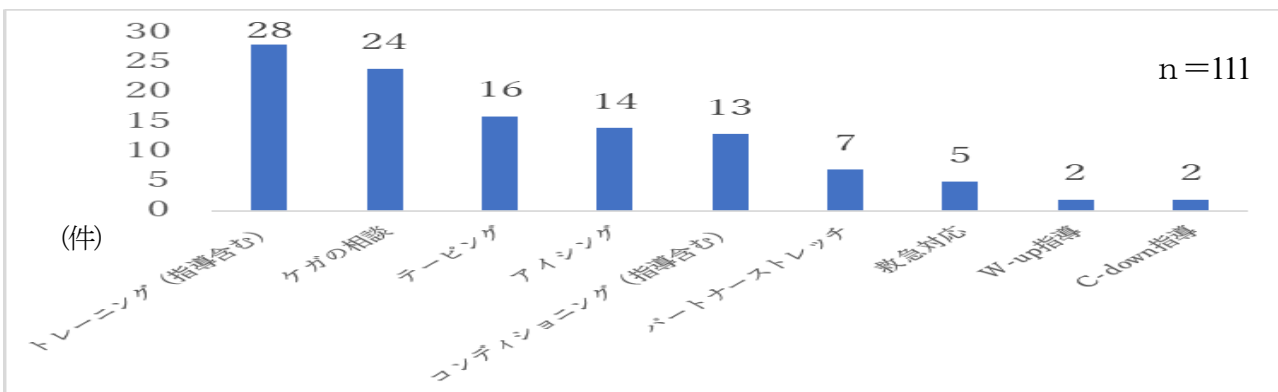
②対応場所 図2



③部位別 図3



④トレーナー対応の内容 図4



# 活動関連写真

購入物品



物品の使い方等の話し合い



トレーニング指導



体力測定の結果説明



いつでも動けるように練習を見学



ケガの選手に対する運動指導

